

A 中種子堆肥センターでの製造は機械の老朽化等により行いません。なお、代替品のペレット堆肥を生産資材課各店舗で取り扱っていますのでご利用ください。

Q 新光糖業の糖蜜の肥料化についてJA、行政、新光の3者で取り組みを強化してほしい。

A 新光糖業において糖蜜の肥料化をはじめとする再利用等について取り組みを進めております。

Q 農業経営において、担い手不足や高齢化に伴い今後の農業経営基盤強化対策は必要だと感じている。島外からの移住者を含む新規就農者を増やしていかないといけないが居住先がないなど様々な問題点がある。現時点でJAでは何か対策を講じる考えがあるのか。

A 島外からの移住者や外国人労働者等も視野に入れ、受入体制の整備についても前向きに検討していきます。

Q 原料用甘藷の収量が24万袋ですが、1工場8万袋の集荷になり、工場運営状況も非常に厳しいことが想定されます。原因と対応策があれば教えてほしい。

A 作付面積減については生産者の高齢化とさつまいも基腐病による減少が主な要因となっており、工場経営は非常に厳しい状況にあります。一元集荷連絡協議

会のなかでは工場の撤退という話が出ておりません。基腐病については県を中心とした基腐病対策プロジェクトにおいて圃場の巡回や、予防対策の周知を継続して実施しております。

Q バイオ苗の配布が遅いのは何故か。

A 春先までの低温により生育が遅れ、苗の配布が遅れている状況です。なるべく要望に沿った苗の配布を行って参りますので、ご理解をお願いいたします。

Q 中期3カ年計画で米の取扱量は年々減少する計画になっている。将来の展望が見える経営をお願いしたい。

A 3カ年計画における米の取扱量は現状維持で計画策定を行っております。但し、取扱単価については米情勢並びに今後の民間在庫量、平年値等を考慮し、段階的に単価を下げて計画していることから取扱高では減少計画となっております。他品目も含め部会や関連会社、関係機関等とも連携を図りながら生産量確保に努めて参ります。

Q 集荷場の利用料について、昨年引上げがあったが、役員のみで決定し、会員には決定後報告であった。今後は事前に協議してほしい。

A 集荷場については、施設を利用する受益者負担により事業を運営しているという観点から、一定の利用料の設定を行っております。利用料の改定があった場合、振興会役員等において改定理由等の説明を行ない生産者に対し事前周知を図ることと致します。

Q 農産物の販路を経済連だけでは無く、農家も一緒になって新規開拓を行ってほしい。

A 部会と連携して販売先との取引会議や市場との意見交換会による契約取引の拡大や単価交渉など取り組みを行っています。引き続き、農家所得向上のために販路拡大も含めた販売力強化に取り組んで参ります。

Q スマート農業用機械を導入した場合の補助金など具体的な方針はあるのか。

A JAとしては、機械導入に対する補助金の支援は行っておりません。熊毛支庁で「種子島スマート農業推進協議会」が発足していますので、関係機関と連携してスマート農業推進に取り組んで参ります。

【生産購買部】

Q 飼料袋のカビ対策にグリーンラップの対策がなされていなかったが、梅雨時期の飼料には対策してほしい。

A 5月以降製造分の飼料に関しては、グリーンラップ対策が施されております。購入された飼料が5月以前の製造分だった可能性があります。

Q JAは大きな組織であるのに民間の店舗の価格とあまり変わらない。入札等により安く仕入れることはできないのか。

A 価格については、肥料は年2回、農業は年1回の価格改定を行っております。入札等による仕入れについては現状行っておりませんが、予約価格の設定および各種キャンペーン等で安く提供を行っておりますので、ご利用ください。

Q 農薬の使用方法などについて組合員から問われたら、答えられる窓口職員になってほしい。

A 指導員および県普及所職員が合同で検討・作成した栽培暦に使用方法・倍率等は記載されており、窓口においても農業電子図書を設置しております。また、南種子地区以外は購買部門と営農部門をワンフロア化しておりますので、営農指導員等へお尋ねください。

Q からも肥料袋(リッチシリーズ)が半年位で袋が破けてきている。

A リッチシリーズに限らず、全肥料同一の素材を使用しており、B工場において肥料を詰めた状態

【全体運】 騒がしかった状況が次第に収まっています。判断に迷ったら成り行きを見守って◎。下旬からは積極的に動いて
【健康運】 喉の痛みに注意。嗜好品はほどほどに
【幸運を呼ぶ食べ物】 葉トウモロコシ



乙女座
8/23
~ 9/22